

尾張旭市障害者地域自立支援連携会議会議録

1 開催日時

令和4年10月24日（月）

開会 午後2時00分

閉会 午後3時00分

2 開催場所

尾張旭市保健福祉センター 4階 シアタールーム

3 出席委員

岡元洋子、木村祐輝、松原智、田島敬二、成瀬史宣、益田貴士、小副川恵子、大谷明典、大竹利幸、大野美紀、星原淳一（計11名）

4 欠席委員

なし

5 傍聴者数

なし

6 出席した事務局職員

健康福祉部長 竹内元康、福祉課長 浅野哲也、障がい福祉係長 中野陽子、主査 村山麻実、主査 長江奈緒子、尾張旭市障がい者基幹相談センター長 村田健郎

7 議題

- (1) 専門部会における活動計画及び進捗状況について（資料1-1～1-8）
- (2) グループホームの質の向上及び専門部会のあり方について（資料2）
- (3) 第7期尾張旭市障がい者計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画策定について（資料3-1～3-3）

8 会議要旨

福祉課長	福祉課長の浅野と申します。本日はお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。議題に入るまで議事の進行をさせていただきます。 ただ今より、令和4年度尾張旭市障害者地域自立支援連携会議を始めます。 会議に入る前に、構成員の方の出席状況について御報告させていただきます。 まだ、益田様がお見えになりませんが、現在10名のかたが出席されています。益田様から欠席の連絡はいただけていないので、多分遅れて来られると思います。 次に、会議の公開についてですが、会議の開催情報を事前に市のホームページに掲載し、会議を傍聴できるようにしております。
------	--

	また、構成員名簿及び議事録についても、後日ホームページ上で公開しますので、御承知おきください。 次に、会議の傍聴についてですが、本日は傍聴されるかたはいらっしゃいません。 それでは、会議の開催にあたり、健康福祉部長より挨拶を申し上げます。 健康福祉部長の竹内でございます。本日はお忙しい中、尾張旭市障害者地域自立支援連携会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。 また、皆さんには、日頃より本市の障害福祉の推進に御理解、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。 さて、本日は、第6期障がい者計画などにに基づき、差別解消、合理的配慮の推進、虐待防止や成年後見制度の利用促進、雇用・就労の促進、医療的ケア児への支援体制の構築など、地域共生社会を目指し、各施策を進めています。 その一方で、地域生活支援拠点などの評価、拡充、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築など、まだ課題も多い状況となっております。 そうした中ではありますが、本日の議題でもあります第6期障がい者計画などの計画期間が来年度までとなっておりますので、次期計画について今年度から着手し、来年度中には策定というスケジュールになります。 皆様には、幅広い視点から御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
健康福祉部長 福祉課長	健康福祉部長の竹内でございます。本日はお忙しい中、尾張旭市障害者地域自立支援連携会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。 また、皆さんには、日頃より本市の障害福祉の推進に御理解、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。 さて、本日は、第6期障がい者計画などにに基づき、差別解消、合理的配慮の推進、虐待防止や成年後見制度の利用促進、雇用・就労の促進、医療的ケア児への支援体制の構築など、地域共生社会を目指し、各施策を進めています。 その一方で、地域生活支援拠点などの評価、拡充、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築など、まだ課題も多い状況となっております。 そうした中ではありますが、本日の議題でもあります第6期障がい者計画などの計画期間が来年度までとなっておりますので、次期計画について今年度から着手し、来年度中には策定というスケジュールになります。 皆様には、幅広い視点から御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 それでは、お手元の尾張旭市障害者地域自立支援連携会議の構成員名簿を御覧ください。 本来であれば、出席者の皆様に自己紹介をお願いするところですが、お時間の都合上、名簿を確認したことで御紹介とさせていただきます。 次に、事務局職員の紹介をさせていただきます。

事 務 局	<事務局職員 自己紹介>
福 祉 課 長	次に、第7期障がい者計画・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定に当たり、コンサルタント会社から支援をいただいておりますので、御紹介いたします。
株式会社サーベイリサーチセンター 福 祉 課 長	<サーベイリサーチセンター 杉田氏 自己紹介> 会議に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。 <資料の確認>
福 祉 課 長	それでは、議事に入ります。 慣例により、事務局で議長を務めさせていただきます。
健康福祉部長	改めまして、議長を務めさせていただきます健康福祉部長の竹内です。皆様から忌憚のない御意見をいただくことで、会議を円滑に進めてまいりたいと思いますので、御協力をお願いいたします。 それでは、早速、議事を進めてまいります。御発言の際には、挙手の後、指名を受けてから発言をお願いします。
健康福祉部長	はじめに、議題(1) 専門部会における活動計画及び進捗状況についてです。内容としては、事前配付しました資料のとおりです。 この件につきまして、何か御意見、御質問等がありましたら、御発言をお願いいたします。 <意見なし>
健康福祉部長	各部会からの活動報告ということですが、内容はこれでよろしかったでしょうか。報告ですので、また内容を御覧いただき、何かありましたら御意見等お願いいたします。 それでは、議題(1)は以上とさせていただきます。

健康福祉部長	次に、議題(2)として、グループホームの質の向上及び専門部会のあり方について、事務局から説明をお願いします。
障がい福祉係 主査	<説明>
健康福祉部長	ただ今の件について、何か御意見、御質問等ありましたら、御発言をお願いします。
大 竹 委 員	日中支援型のグループホームと通常のグループホームの違いは何か。
障がい福祉係 主査	通常のグループホームの場合、基本的に日中はグループホーム外で活動できるかたが対象のため、日中は日中活動や就労系の事業所等で過ごし、夜間・休日のみグループホーム内で過ごします。 日中支援型グループホームの場合、日中も介護が必要な方が対象のため、日中・夜間ともにグループ内で過ごします。 つまり、日常的に介護が必要なかたは日中支援型、日中に外で活動できるかたは通常のグループホームと考えていただければと思います。
大 竹 委 員	今後の予定が9か所となっていますが、日中支援型と通常のグループホームの割合は、どのようになっていますか。
障がい福祉係 主査	日中支援型については、近々開設予定の所が2か所ありますが、現在はまだ開設しているところはありません。現時点で開設しているのは、全て通常のグループホームとなっております。
健康福祉部長	他に、御意見等ありましたらお願いします。
株式会社サーベイリサーチセンター	計画策定をさせていただく私どもの目から見て、グループホーム設置促進の目的で、計画にグループホーム数を記載するケースはありますが、グループホームが増えることで質の低下が懸念されるという課題が出ている市町村は、あまりない印象です。そのため、こ

	の課題は、尾張旭市の特徴になると思います。
成瀬委員	国はもうこれ以上、グループホームをはじめ入所施設を作らない方針を打ち出しています。現在、自宅で生活している方の両親が亡くなり、親亡き後に地域で生活する時、どこで暮らすのかという問題は、本市に限らず、大きなテーマとなっています。 グループホームの目標値については、見える化がなかなかできていないかもしれませんが、例えば、夜間の職員がいるかどうか、車椅子対応が可能かどうか等、利用者のニーズも踏まえて評価を行い、積み重ねていかないと、判断は難しいと思います。 グループホームに限らず、どこで暮らしていくのかということは、今後しっかり追う必要があると思います。
健康福祉部長	ありがとうございました。 高齢者の保健福祉計画では、各施設の種別ごとに量的なニーズを調査し、目標を定めて計画へ記載しています。そういったことから、グループホームのニーズ調査をして、市としての適正な数量とを示していくことを目指したらどうかと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。
小副川委員	数量もとても大切ですが、やはり質の問題は多く課題にあがってくると思います。事業所管理者や相談支援専門員は、ある程度の知識がある方が多いと思いますが、実際に現場に入る支援員は、素人が多いのも現状です。その中で、どのようなことが虐待に当たるのかを学ぶ必要があると思います。日常の相談がうまくできなかったり回せないことで、恐ろしい事件が起こっていることは、皆様も御存じだと思います。 今後も、市で状況をしっかり把握し、隠さずに出していただきたいと思います。
健康福祉部長	ありがとうございます。 今、質の低下について御発言があったところですが、質の向上を図るためにグループホームに関する連絡会の立ち上げというような

松 原 委 員	意見もございますが、この辺りについてはいかがでしょうか。既に8部会あるということで、かなり負担にもなるのかとも思いますが、御意見がありましたらお聞かせください。 グループホーム数の目標値を決めた時に、それ以上に造りたいという話が出たら、市として規制はかけるのでしょうか。感覚的に言うと、自由に参入していただき、数が多くなって競争すれば、質も上がっていくと思うのですが。 別件ですが、老人ホームは件数が決まっているため、市街化調整区域に建てる場合、建てたくてもと建てることができず制限がかかるという話も聞きます。そういうことが広がっていくと、質の向上につながる気がするのですが、いかがでしょうか。
障がい福祉係長	民間の事業所がグループホームを建てる場合、市街化調整区域の時は事前に相談がありますが、それ以外の場所に建つ場合は、建ってから市が知ることもあるため、実際には歯止めをかけることは難しいと思います。市街化調整区域に建てる相談の時、すでに充足しているか否かということも、現在、計画には記載してないので、返答に困ることがありました。そこで、計画に載せておいた方が市としても答えやすいと考えました。ただ、どのような状態を充足したとするのか、ということも課題に感じています。 事業所が多く参入すれば、質のいいところが残るのではという期待がありますが、一方で、数が増えると行政の目も入りにくくなり、実際には、虐待疑いの報告などがちらほら聞こえてきてしまう。日中支援型だと、同じ事業所で同じ支援者が24時間関わる場合、どうしても風通しが悪くなり、虐待が起きる可能性も高まります。そこで、虐待が起きにくいよう、顔の見える関係づくりをして見守りをすることも目的の一つとして、連絡会についての意見が出てきたところです。
健康福祉部長	今、2つの課題が出ております。 まず、1点目としては、高齢の介護事業所のように目標値を市の計画に入れ込むべきかという点についてです。

	2点目としては、目標値を立てたときに、それに向かってどのような活動をするのかについてです。
障がい福祉係長	目標を立てるのはとてもいいと思いますが、目標に向かってどのような活動をするのかということも重要だと思います。 一概に数だけでもないというのもあり、特に困っているのは行動障害のある方、自閉症などのため行き先がないとか、精神の方のグループホームが少ないとか、そういった尾張旭市のニーズを整理し、より明確にする必要があると思います。
益 田 委 員	今後、グループホームは増えると思いますが、横のつながりや情報が網羅できているかということ、グループホーム同士でも中が見えておらず、連絡を取り合える環境が、現状あまりありません。一方で、現在専門部会が8部会稼働していて、これ以上増やすのかということも課題になっています。 グループホームの数だけを追えばよいのではないと思います。グループホームは、対象者の年齢、障害の程度、緊急性、専門性、対応できる障害種別など、特色は様々です。現在は、どの分野が足りて、どの分野が足りてないということも十分把握できていない状況だと思います。 その中で、新たに連絡会を立ち上げることも必要だと思いますが、現在の部会の中でどこに組み込んでいくか、日中の支援と暮らしを分けていくのか等を、協議する必要があると思います。
健康福祉部長	今、御説明いただいたように、グループホームの中身が十分把握できていないところがあるので、部会を新たに作ることより、現状をしっかりと把握するところから始めてはどうかと思います。 また、その辺りは事務局で検討させていただきますので、よろしくお願いいたします。 それでは、この件につきましてはここまでとさせていただきます。
健康福祉部長	続きまして、議題(3)、第7期尾張旭市障がい者計画・第7期障が

	い福祉計画、第3期障がい児福祉計画策定について、説明をお願いします。
株式会社サーベイリサーチセンター 障がい福祉係長	<説明> <説明>
健康福祉部長	説明が終わりました。 アンケート調査について、何か確認事項や、御意見、御質問等あれば、発言をお願いします。 今回の計画策定において、新たなアンケート項目も考えてあるようですが、他に確認したほうがよいこと等、御意見があればお願いします。 内容としては、従来のものと比較し、評価する必要がありますので、多くの部分は前回同様の内容になってくると思いますが。
岡 元 委 員	今回、市内企業にアンケート調査を行います。前回なかったものを今回入れることになった経緯を教えてください。
障がい福祉係長	今回、コンサルを決める際に、市民アンケートや企業アンケートの提案がありました。これまで本市は、障害者の就労促進についてあまり着目できていなかったため、このようなアンケートにより課題を把握することで、今後、障害者と雇用側のマッチング作業等がうまくいくよう、推進のために入れました。
岡 元 委 員	これは、雇用するかたを対象に、ということですね。
障がい福祉係長	障害者雇用として、継続して働ける環境づくりや、行政側から企業への働きかけの際にどんなことをポイントにすべきかについて、参考となればと考えています。
岡 元 委 員	企業アンケートだと、雇用しているのは尾張旭市民だけではないと思いますが、そこも含めて考えたいので、市内にある企業に問う

障がい福祉係長	ということでよかったのでしょうか。 おっしゃるとおりです。
岡 元 委 員	企業から見た雇用について、障害者ご本人が、働く中でよかったことや困ったことを聞き出せれば、マッチングできると思いました。実際に、尾張旭市の中で、障害者が企業で働いている割合が少ないという認識でよかったのでしょうか。
健康福祉部長	ハローワークのかた、御意見をお願いします。
木 村 委 員	ハローワークでは、障害者を採用しているすべての企業についての把握はできておりません。把握しているのは、いわゆる障害者雇用促進法の雇用率が設定されている、従業員に対して何人障害者を採用しなければならないというところです。そのような企業に関しての数字は、ハローワークとして指導するうえで必要があるため、把握しています。そちらを基に、各企業に対してあたっているため、こちらとしては、実際に障害者を採用している企業が、どのような配慮をされているか、採用するに当たり困っていることはあるか等はよく聞く話です。今回の企業へのアンケートは、ハローワークとしても把握したい内容であり、協力できる場所があればお願いしたいところです。市がこのようなアンケートをすることで、把握できなかった企業の悩みや、従業員の数が少なくても多数障害者を雇っている事業所等の実態から、好事例を把握させていただくことで、そこから展開ができたり、サポートさせていただくときの参考になると思います。
健康福祉部長	また、雇用・就労の関係で、アンケートがまとまれば、連携も計画していきたいと思いますので、お願いします。 そのほか、よろしかったでしょうか。
成 瀬 委 員	より多くのかたのアンケート回収が望まれますが、前回のアンケート回収率はどのくらいでしたか。

障がい福祉係長	第6期策定の基礎調査の回収率は57.1%。調査数は3,458、回収数は1,973です。 割合を見てみますと、一番高いのは身体障害のある方が61.1%、知的障害のある方が52.5%、精神障害の方が49.8%、障害のある児童も同じく49.8%、難病の方は52.6%でした。
成瀬委員	回収率を高めるために、我々が何かできることはありますか。
障がい福祉係長	アンケート発送の際に、お声がけさせていただきますので、相談支援部会等で共有して、計画やモニタリングの際にアンケートのことに触れていただけると助かります。 今回は、ウェブでも回答できるようになっておりますので、文字を書くのが苦手な方や、若い世代の方の場合、そちらのほうが回答しやすくなっております。ぜひ周知をお願いしたいと思います。
成瀬委員	分かりました。
健康福祉部長	他はよろしかったでしょうか。 またお気づきの点がございましたら、福祉課へお伝えいただければと思います。よろしくお願いいたします。 それでは、この件につきましてはこれまでとさせていただきます。 最後に、その他として事務局から何かあれば、お願いします。
福祉課長	お手元にお配りしました、MIRAIRO IDというチラシをご覧ください。障害者手帳は紙の見開きの手帳となっていますが、手帳の情報をアプリでスマホ等に取り込み登録することで、紙の障害者手帳をかばんから出して見せることなく、スマホ等を提示することで障害があることをお知らせできるというものです。 市のあさぴーバスと、長野県にある尾張あさひ苑という温泉施設で、このMIRAIRO IDの提示で確認が取れるようになりましたので、御報告させていただきます。

成瀬委員	これは、マイナンバーと連動していますか。
障がい福祉係長	あさびーバスのほうは、マイナンバーと連携したものでないと手帳として扱えないため、注意が必要となっています。マイナンバーと連携すると、マイナのマークが出るようになっております。
健康福祉部長	他はよろしかったですか。 皆さんから何かございましたら、この機会に御発言をお願いしたいと思います。よろしいですか。 <意見なし>
健康福祉部長	それでは、本日予定の内容は全て終了いたしました。 皆様、長時間にわたり御協力をいただき、大変ありがとうございました。 本日の会議はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。